

# 2014年度 創造的人材育成特別講義 講師と日程

金曜日4講目（14：45～16：15）

日程	機関	講師	タイトル	講義内容の概要
4/4	CEED	山下 徹	ガイダンス	本講義の狙い、進め方など。
4/11	リアルモチベーション	岡 雅史	コミュニケーション力の発揮	企業は、技術者にコミュニケーション力の発揮を求めている。周囲の理解や協力を獲得するコミュニケーション力は、天賦の才ではなく、誰もが日常の研究活動の中で向上できる。本講義を通じて、コミュニケーション力を向上し、自分自身の持ち味を伸ばそう!
4/18	CEED	山下 徹	研究者として働く(日本、オーストラリア)	研究者として働くとはどういう仕事をするのか。日本の企業、大学と、オーストラリアの大学や企業ではどのような違いがあるのか。何が求められるのか。
4/25	本田技術研究所	前田 義男	モビリティを取り巻く課題と対応	全世界の人々に移動の喜びと、物を運ぶ利便性を提供する自動車、2輪車、船舶、航空機等の様々なモビリティを製造しているホンダが考える、モビリティを取り巻くいろいろな課題と、それらの課題に対して自由に移動する喜びと地球環境にやさしいモビリティを両立する為に様々なチャレンジをしてゆくホンダの取り組みを紹介し、将来は技術者を目指す皆さんに期待する事等をお話します。
5/2	三菱マテリアル	櫻井 健	材料メーカーで働く技術系社員が会社から求められること	講演者が材料メーカーに入社して以来の経歴とそこでの経験を振り返り、技術系のビジネスパーソンとして、それぞれの立場で求められてきたことと、自らを変えるきっかけとなったことを、実例を挙げて紹介したい。そして、これから起こる社会の変化に対して、どの様な心構えで臨んだらよいか提案させてもらいたい。
5/9	大同特殊鋼	秦野 敦臣	技術の進歩の功罪を考える	技術はその成果を生かすことにより、人間の生活に役立つものであるはず。しかしながら、技術の進歩は人間生活を豊かに、便利にする一方で、地球温暖化に代表される環境破壊や事故などさまざまな弊害を生み出してきたのも事実である。時代、年代とともに変化してきた技術の変遷を振り返りながら、技術開発の功罪について考えるとともに、技術者の役割についても論じたい。
5/16	CEED	山下 徹	討論会(準備)	小グループに分かれてのグループディスカッション。
5/23	CEED	山下 徹	討論会(発表)	グループごとの発表と質疑応答など。
5/30	キューブマジック	岩井隆郎	大企業から起業して	大企業で研究/技術/労働組合専従/商品企画に携わった経験からは組織の中で自分をどう活かすかのヒントを、独立起業して今に至る経験からは社会の中で自分をどう活かすかのヒントをお話しできればと思います。
6/13	IHI	岩崎哲也	社会の持続を可能とする発電技術	日頃の生活に欠かすことのできない電気。発電技術の中で、火力発電設備(ボイラ・環境設備)の設計・製造・建設に従事している経験を紹介する中で、社会の持続を可能とする発電設備について考える機会にして頂ければと思います。
6/20	HGSTジャパン	大野 徒之	HDDを例にした研究、設計、品質管理の役割	右肩上がりから成熟を迎えた産業であるHDD(磁気ディスク)を通して、技術者としては研究/設計/品質管理の経験、会社人としては大企業/統合/買収の経験をお話します。もうすぐ社会に羽ばたく学生の皆さんの参考になればと思います。
7/4	東京設計事務所	片石謹也	これからの公共インフラ整備とステークホルダー	老朽化対策、耐震化対応等、今後の公共インフラ事業が抱える課題・対応策とは?主に水道事業におけるステークホルダーから、「水」コンサルタントの経験を基に話題提供したい。アセットマネジメントとは?これから進みたい業界は?(業界の裏話も...)
7/11	K-Coal (韓国)	牧野 英一郎	石炭エネルギーの過去・現在・未来	クリーン・コール・テクノロジーによるエネルギー安全保障と講師が大学から現在に至る35年間携わってきた石炭技術とプロジェクト開発の体験に基づき問題提起する。
7/18	CEED	山下 徹	討論会(準備)	小グループに分かれてのグループディスカッション。
7/25	CEED	山下 徹	討論会(発表)	グループごとの発表と質疑応答など。